

令和5年度 事業計画書

() 内は前年度当初予算

【公益目的事業 1】 長寿科学研究等支援事業

長寿科学に携わる研究者に対して、その研究費などを支援する事業

(1) 長寿科学研究者支援事業 [自主財源] 179,897千円
(76,209千円)

長寿科学研究に携わる研究者を対象に、その研究活動を幅広く財政的な支援を実施することにより、研究者の育成と長寿科学の振興を図る。

支援計画 ○指定課題研究 継続1件

○長生きを喜べる長寿社会実現研究 継続2件、新規1件

○高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成 新規3件

No	研究代表者	所属施設	研究課題	研究期間 公募種別	希望 助成額 (円)
1	新飯田俊平	国立長寿医療 研究センター 研究推進基盤 センター長	認知症におけるデータ ベース構築手法の研究	3年計画 3年目 指定課題	継続 30,000,000
2	三浦 久幸	国立長寿医療 研究センター 在宅医療・地 域医療連携推 進部長	アドバンス・ケア・プ ランニング推進のため の共通 ICT プラットフ ォーム構築—どこで療 養していても本人意思 が尊重される社会作り	2年計画 2年目 長生きを喜べる 長寿社会実現研 究支援	継続 10,000,000
3	檜山 敦	一橋大学 ソーシャル・ データサイエ ンス教育研究 推進センター 教授	貢献寿命延伸への挑 戦！ ～高齢者が活躍するス マートコミュニティの 社会実装～	3年計画 2年目 長生きを喜べ る長寿社会実現 研究支援	継続 30,000,000
4	斎藤 民	国立長寿医療 研究センター 老年社会科学 研究部長	ユニバーサル・フレンド リー・ファシリティ が認知症の人と地域住 民の社会参加向上とス ティグマ軽減、ウェル ビーイング向上にもた らす効果検証	2年計画 1年目 長生きを喜べる 長寿社会実現研 究支援	新規 10,000,000

No	研究代表者	所属施設	研究課題	研究期間 公募種別	希望 助成額（円）
5	島田 裕之	国立長寿医療 研究センター 老年学・社会 科学研究セン ター長	高齢者のスマートフォ ン利用促進を介したア クティブライフ・コミ ュニティーの形成	2年計画 1年目 高齢社会課題解 決研究および社 会実装活動への 助成	新規 22,600,000
6	瀧 靖之	東北大学 加齢医学研究 所教授	“学び合い”プログラ ムを用いたデジタルス キルラーニング・エコ システムの開発と実装 ～多世代型互助による スマート・インクルー ジョンの実現～	2年計画 1年目 高齢社会課題解 決研究および社 会実装活動への 助成	新規 32,249,550
7	村山 洋史	東京都健康長 寿医療センタ ー研究所 社会参加と地 域保健チーム 副部長	「ジョブボラ」の創出 とデジタルマッチン グの実装に向けた研究： 誰もが活躍できる社会 を目指して	2年計画 1年目 高齢社会課題解 決研究および社 会実装活動への 助成	新規 24,992,550
合計			159,842,100 円 (うち Google からの寄附金 79,842,100 円)		

(2) 長寿科学関連国際学会派遣事業

〔自主財源〕

0 千円

(0 千円)

令和5年度の事業は休止する。

(3) 若手研究者表彰事業

〔自主財源〕

0 千円

(0 千円)

令和5年度の事業は休止する。

【公益目的事業 2】 情報提供事業

長寿科学研究の成果や健康長寿に関する情報を広く国民に提供する事業

- (1) 出版事業（業績集の発行） [自主財源] 0 千円
(0 千円)

令和5年度の事業は休止する。

- (2) 出版事業（機関誌の発行） [自主財源] 16,706 千円
(14,835 千円)

本財団の機関誌「Aging & Health」をWEB配信し、健康長寿情報や長寿科学研究成果のより分かり易い広報を行う。

配信回数 4回（春、夏、秋、冬）

- (3) 健康長寿ネット事業 [自主財源] 11,254 千円
(11,556 千円)

本財団のホームページ「健康長寿ネット」により、老化予防や健康づくり、疾病、介護予防など、健康長寿に関する情報をインターネットを通じて広く国民に提供する。また、新たなコンテンツの追加や財団の機関誌の情報などを提供することで財団の認知度を向上させる。

情報分野： 長寿・医療・介護、介護予防のための生活機能チェック

公開コンテンツ数：約1,751項目

年間アクセス件数：約30,000,000件

- (4) 長寿たすけ愛講演会開催事業 [自主財源] 0 千円
(0 千円)

令和5年度の事業は休止する。

- (5) 長寿科学研究普及事業 [自主財源] 4,650 千円
(4,650 千円)

国立長寿医療研究センターとの連携により、毎年テーマを定め、長寿科学研究に関するシンポジウムを開催し、研究成果などの普及啓発を図る。